

哀 辞

2005年9月6日 本学名誉教授大野英二先生が逝去されました 享年83歳

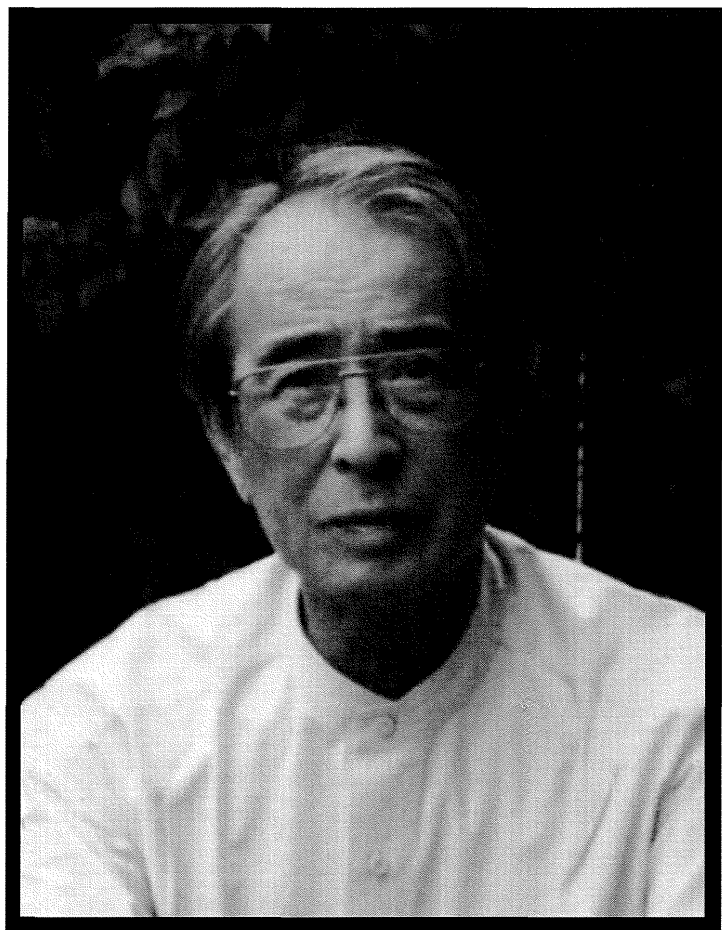
先生は1922年10月20日に名古屋市にお生まれになり 15年戦争の時代に中学から第八高等学校をへて1942年10月に京都帝国大学経済学部へと進めました 1945年9月に京都帝国大学大学院に入学 蜷川虎三教授の指導を受けられましたが 翌46年に助手に採用されて以降 先生は講師 助教授 教授として約40年間経済学部のために貢献されました

先生は『ドイツ金融資本成立史論』1956年によって学界に確固たる地位を築かれましたが 続いて『ドイツ資本主義論』1965年 『現代ドイツ社会史研究序説』1982年という2冊の大著を上梓され その後も『ナチズムと「ユダヤ人問題」』1988年 『ドイツ問題と民族問題』1994年 『ナチ親衛隊知識人の肖像』2001年 『比較社会史への道』2002年とドイツの現代史を深く抉る著作を刊行され 一貫して学究としての姿勢を貫かれました ドイツ文化を深く愛された先生は ドイツの研究者の業績から貪欲に学び また同時代の研究者と親密に交流しながら研究されました 先生はドイツ第二帝政の研究からナチズムの研究へと進められました が先生の学問的業績は重厚な学風に基づく圧倒的な迫力を持つものであり 多くの同輩と後進に深い感銘と影響を与えるものであるとともに ドイツの研究者からも顧みられる 優れたものであります

さらにまた先生は『ドイツ資本主義の史的構造』などの共編著や 『河上肇全集』などの共同編集 ベーメ『現代ドイツ社会経済史序説』などの教え子との共訳によっても わが国の学問と思想の発展に大きな功績を残されました

先生は京都大学で学部長 評議員 大学院審議会委員など多くの役職を通して 大学の発展に貢献されました また土地制度史学会 日本経済政策学会 社会経済史学会や日独文化研究所の理事や評議員として学会等の発展にも寄与されました 定年退官後は中部大学国際関係学部の教授として10年間教育研究に貢献され こうして50年にわたる教職を通して先生は多くの研究者を育てられ 多くの学生・院生の教育にあたられました

京都大学経済学会は 先生の生前における経済学研究と教育にたいす ご貢献に感謝するとともに ここに在りし日の先生の御遺影を掲げて心から哀悼の意を表するものです



故 大野英二教授遺影

故 大野英二先生 御略歴

1922(大正11)年10月	愛知県に生まれる
1940(昭和15)年4月	第八高等学校文科乙類入学
1942(昭和17)年9月	第八高等学校文科乙類卒業
1942(昭和17)年10月	京都帝国大学経済学部入学
1945(昭和20)年9月	京都帝国大学経済学部学士試験合格
1945(昭和20)年10月	京都帝国大学大学院入学
1946(昭和21)年10月	京都帝国大学大学院退学
1946(昭和21)年10月	京都帝国大学助手(経済学部)
1950(昭和25)年1月	京都大学講師(経済学部)
1950(昭和25)年6月	京都大学助教授(経済学部)
1953(昭和28)年4月	京都大学大学院経済学研究科担当
1961(昭和36)年11月	経済学博士
1966(昭和41)年1月	京都大学教授(経済学部)
1966(昭和41)年7月	京都大学評議員(1968年3月まで)
1968(昭和43)年3月	ドイツ連邦共和国, フランス, イギリス, イタリアへ出張(1969年2月まで)
1971(昭和46)年1月	京都大学経済学部長(1972年1月まで)
1981(昭和56)年4月	京都大学評議会・大学院審議会審議委員(1983年3月まで)
1986(昭和61)年3月	京都大学退官 京都大学名誉教授
1986(昭和61)年4月	中部大学国際関係学部教授
1995(平成7)年3月	中部大学国際関係学部退職
2005(平成17)年9月	御逝去